

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 1970101752 |
| 法人名 | 有限会社 百百 |
| 事業所名 | グループホーム「笑がお」 |
| 所在地 | 〒 400-0071 山梨県甲府市羽黒町1461-1 電話番号 055-253-1148 |

| | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 山梨県甲府市北新1丁目2-12号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年11月27日 | 評価確定日 | 平成20年1月7日 |

【情報提供票より】平成19年11月1日 事業所記入

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|--------|----------------------|
| 開設年月日 | 平成16年12月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 19人 | 常勤 | 8人 非常勤 11人 常勤換算 3.3人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|------------------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り |
| | 2 階建ての 1 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--|----------------|---|-----|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 | |
| 敷金 | <input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | <input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無 | 有りの場合 償却の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 0 円 | 昼食 | 0 円 |
| | 夕食 | 0 円 | おやつ | 0 円 |
| | または1日当たり 1500 円 | | | |

(4) 利用者の概要 平成19年11月1日 現在

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 13 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83 歳 | 最低 | 69 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 社会保険 山梨病院 花形歯科医院 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月7日

住宅地に建てられており、全体がガラス張りの居間から盆地が見渡せ、富士山も一望できる。湯村山の紅葉がひろがり、季節が肌で感じられる。職員・利用者も表情がまさに「笑がお」でホーム全体は明るい雰囲気利用者本位のゆったり支援が行われている。ホーム内に閉じこもらず、外出の機会を多くつくって、地域の触れ合いを大切にしている。その人らしい日常生活が送れるようにしている。管理者の、豊富な経験が業務に活かされ、改善計画を作成し、常に質の向上を追求している。終末期の事例では、ターミナル医と連携をとり、家族と共に納得いくケアを構築している。自治会活動には積極的に参加して交流を深め、地域住民として信頼関係ができています。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善点①浴槽の手すり②食堂テーブルの椅子の高さの不具合③全室表札が均一④薬品の保管の4点①については2カ所の手すりを4カ所に増設し安全確保した。②ウレタンを利用し体格にあうようにした。③うちわを利用して独自性をだした。④の薬品保管については、箱を利用して棚に2重にし、入居者の目に触れないようにした。改善計画に乗せ職員で検討した結果である。運営推進会議でも議題とした。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ①自己評価は、管理者及び職員全員で取り組み、更なる支援の向上を図っている。 |
| | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自治会区長・民生委員・母子相談員・寿会長・包括支援センター職員・家族代表・利用者等の出席により開催されている。ホームの活動報告、自己・外部評価結果、ホームの行事予定、自治会への要望、「笑がおだより」の有効活用などが主である。会議録として保存されている。 |
| 重点項目② | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族のホームへの訪問は頻繁にあり、その都度意見や要望を伺っている。苦情等の対応については、重要事項説明書に明記してあるが、苦情については現在までない。また家族アンケートも実施している。家族の意見や要望についてはカンファレンスで話し合い、解決している。今後は文章化の取り組みを検討している。 |
| | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム内に閉じこもらず外出することで、近くの住民が日常的に声をかけあう、馴染みの関係づくりができています。ボランティアの方々が踊り・太鼓・ギター演奏にきてくれるのは楽しみとなっています。開所時から自治会に加入しており、ホームからも地域行事の運動会・文化祭・清掃への参加も行っている。 |
| 重点項目④ | |

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム「笑がお」

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「やさしい笑顔とおもいやりの介護 人と人・心と心・絆大切に」のスローガンを掲げ地域の中で、その人らしく生活することを支えるケアを職員はもとより運営推進会議でも取り上げ、サービスの理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 事務室、リビング等に解かり易く、目につきやすい形で掲示してある。採用時に毎日目を通すことを職員に伝えたり、職員も理念を念頭にしている。定例勉強会でも再確認を行い、日々の実践の中に理念を積極的に取り入れようとしている姿勢が伺えた。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 開設当初、自治会区長・民生委員等各役員に挨拶めぐりをし、地域の理解を深めるよう心がけている。現在では、自治会に加入しており、祭・運動会や文化祭に参加したり、清掃などの行事も参加している。定例区会に参加し、「笑がおだより」の回覧もして頂いている。 | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価は、職員同士で取り組み、その後管理者の考えも取り入れながら、皆で共有している。改善シートも作成している。前回の4点の改善点、適正な手すりの設置、均一の名札には、うちわを工夫するなど、ミーティングでの話し合いを生かし、改善に取り組んだ。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 区長、民生委員、母子相談員、寿会会長、包括支援センター、家族代表、利用者等の出席により、開催されている。ホームの活動報告、評価結果、取り組みの報告。最近では「笑がおだより」の有効活用、行事の参加方法等話し合われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域密着型サービスとして、書類の見直しや利用状況の相談を直接出向き指導をお願いしている。「笑がおだより」発行時・外部評価結果等持参して、更にサービスの向上のため、協議している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族のホームへの来訪は頻繁にあり、その都度利用者の様子や健康状態を伝えている。更に毎月写真を添えたお手紙と預り金管理表送り、近況報告をしたり確認のサインもらっている。外部・自己評価結果や運営推進会議録の内容を情報提供をしている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族には、手紙や来訪時・推進会議の折り、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はカンファレンスで話し合い、解決している。今後は文章化に向け取り組みを検討している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えているので、ユニット間の異動は考えていない。離職がやむを得ない場合、その時期や引き継ぎについても、管理者が対応して、利用者に影響でないよう最善の努力をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修計画も確立されている。内部研修は毎月定例的に時間外で開催している。外部研修に管理者、職員、パート職員が参加している。職員の資格取得も重要な位置づけとしている。研修会の内容も内部研修会時に報告している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会の研修会に参加し、意見交換をしている。他施設の職員を受け入れたりしている。、職員が他施設に出向き、現場の方との意見交換をしたいという要望があり、今後の検討課題として頂きたい。 | ○ | 他施設の職員の受け入れもしたりし情報交換もしているが職員に他施設で現場の方との意見交換をしたいとの要望もあり、今後の取り組みに、期待する。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前、何回かアセスメントを兼ねて家庭訪問をしている。また本人、家族がホームを訪問し、安心が得られるよう関わりを持つようになっている。他の利用者と一緒に過したり、職員と利用者との馴染みの関係づくりをし、納得の上で入居している。 | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者は得意分野での役割を担当し、料理、花の水やり、野菜づくりなど職員は教えていただくという気持ちで日々接している。カンファレンス・プランで意志統一を図っており、楽しく生活できるように心掛けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時は寄り添い、触れ合うことを基本としている。会話や表情や仕草から入居者の思いをくみ取るようにしている。また家族からも情報を得たりしている。本人にとって何が一番大事なのかカンファレンスで意見を統一している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者別にファイルされた介護計画やシートの情報を全職員が共有している。サービス担当者会議を開催し、本人、家族、職員と話し合った意見等反映し、介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 適時適切に個別制を大切にしながら見直しを行っている。安定している方についても、月1回のカンファレンス時に見直している。職員の日々の関わりの中で、状態が変化した時は、随時サービス担当者会議を開催し、対応方法を確認し合い、本人家族と相談し、新たな計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 買い物やかかりつけ医の受診支援の他墓参りや実家への里帰りについても家族と相談しながら、柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。ご家族から感謝の手紙もいただいている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 連携の医療機関の他、入居者が希望する医療機関への受診は原則は家族対応で行っているが、家族対応が不可能な場合は職員が同行して受診できるよう支援している。連携の医療機関での往診も可能であり、適切な医療を受けられるよう支援されている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ターミナルケアの取り決めを行っている。本人・家族の意向を聞き医療機関と連携を取りながら、安心して終末期を迎える取り組みをしている。過去に一例あり、終末期を職員・家族と一緒に過ごすことにより安心して見送ることができた。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーや尊厳の保持については、全職員が勉強会やカンファレンスの場で、意識向上の統一を図っている。また個人の情報の取り扱いについても採用時やカンファレンス等日常的に確認し合い、秘密保持の徹底が図られている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間、就寝時間、夜遅い時間の入浴、散歩や買い物等個々のペースに合わせて希望に沿った支援がなされている。今後も日常的に希望の把握徹底を図り、具体的にプランに取り入れ、よりその人らしい暮らしぶりの確保に努め、更なる向上を目指している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 希望を取り入れた献立を作成し、旬の物や畑でとれた野菜も食材に加え、準備から片づけまで職員と一緒にしている。職員も同じ物を食べ、散歩時の様子や味付け等話題にし、和やかな食事時間となっている。また、外食、誕生日、行事食等特別メニューもある。郷土食の再現も考慮中である。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 時間帯は特に決めていないが殆どの利用者が夜間入浴を希望されており、夜間入浴している。仲の良い方同士一緒に入浴することもある。長時間の入浴者には声掛けしたり、体に負担と思われる方には間隔を開けるよう配慮している。職員も複数体制にし、安全確保に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴を参考にし、掃除、洗濯、草花の手入れ、食事づくり、また、ぬか漬けやすし巻き等、個々が得意とする分野で経験と知恵を発揮してもらえよう、場面づくりに努めている。このことが、喜びや自信に繋がっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 雨の日でない限り、散歩の希望者は多く、歩行困難であっても車椅子で日常的に出掛けている。買い物・外食やドライブに行き、時には自宅に立ち寄ることもある。また、地域の行事に参加する機会を得て、可能な限り外出支援を行い、季節を肌で感じて頂いている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | チャイム付きの玄関のドアは、冷暖房中以外は解放されている。誰でも出入りは自由である。職員は常に見守り体制ができており、利用者が外出してしまった場合の対応については、マニュアルに沿って全職員が認識をしている。連携プレーも確立されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|--|
| 27 | 71 | ○災害対策 | 年2回利用者と共に自主訓練や消防署の協力を得て訓練を行っている。内容は、初期消火、通報・避難訓練等昼夜を想定実施している。大雨の時地域の人の見守りを受け、声を掛けて頂いたことを有り難く思っているが現在地域との協力体制は整っていない状況である。地域の消防団との連携を深める予定である。 | ○ | 運営推進会議の機能を活かし、地域の協力が得られるよう自治会に働きかけ、合同訓練も考慮に入れ、その体制づくりに取り組まれることを期待する。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量については職員がチェックし、必要に応じ摂取状況を記録している。食事量が少なかったり、むせのある利用者は家族と相談して、嗜好を考慮し、栄養バランスの確保に努めている。栄養士等専門家による指導やチェックは受けていない現状である。 | ○ | 栄養バランス等のアドバイスを栄養士や保健師等の専門的立場から受けられるよう現在行政に相談中である。早期実施に向けた取り組みに期待する。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関前には手入れされた季節の花が植えられ、人を迎え入れる気持ちが漂っている。居間にはテレビ・ソファが置かれている。対面式のキッチンの前に食卓があり茶碗を洗う音、ご飯の炊ける臭いがし、また時計カレンダーの他、調度品も違和感なく家庭的である。大きなガラス張りの窓からの眺望もよく、季節感が味わえる。居心地良さを感じる空間である。廊下や玄関にも椅子が置いてあり、居場所の工夫がされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から使い慣れた家具や馴染みの深い物品を家族と確認し、部屋づくりをしている。仏壇やテレビ、家族の写真、手芸品で思い思いの品で居室づくりがされている。その人らしく過ごせるよう工夫に配慮が感じられる。 | | |